

うつべ ふるさと探訪マップ

うつべ地区のあらまし

内部(うつべ)地区は、四日市市の最南部に位置し、面積は約12.3km²で人口は約1万8000人、地区の中央を内部川が横断しています。古代からの歴史の足跡と豊かな自然に恵まれたロマンの里…内部。

この地区は古代から東西交通の要衝でありました。倭建命(ヤマタタケルノミコト・日本書紀では日本武尊)の時代から江戸時代まで東海道は日本のメインルートでした。追分の鳥居を分岐点とし南へはお伊勢参り、西へはこの内部地区を経て京の都、大阪へと多くの旅人が行き交いました。今でも旧東海道沿いの家々の格子窓や一里塚跡などに往時の面影を偲ぶことができます。昭和20年代の後半に国道一号線(内部地区を縦断)が完成、同国道は東西物流の主要な地位を占め、その後名神高速や名阪国道、東名阪などの基幹道路の完成後もこれら高速道路と連携し東西交通の重要な部分を担っています。

内部地区は古くから農村地域として米作を中心とし、畑作も盛んでした(繩文・弥生文化の土器など出土)。最近は農業のウェイトは少なくなりましたが、それでも集落を囲むように水田が広がり、丘陵地にはイチゴやトマトをはじめとする農園も見られます。一方で昭和30~40年代、工業都市四日市市の発展と共にそのベッドタウンとして、住宅団地が各所に造られ、人口が大幅に増加し内部の里も大きく変貌しました。1938年(昭和13)海軍燃料廠の山の手宿舎としてこの内部地区と、隣接する日永地区に住宅が建設された歴史もあります。

内部地区には多くの豊かな自然が残されており、遙かにそびえる鈴鹿連山の下、春の桜、夏はホタル、秋の実りの田、内部川や山々の冬景色など四季折々に様々な風情を楽しむことができます。また、全国的にも極めてまれなナローゲージ「四日市あすなろう鉄道」が旧東海道と並走するように、沿線住民の足として内部まで走っており、全国の鉄道ファンの注目も浴びております。

1 見当山

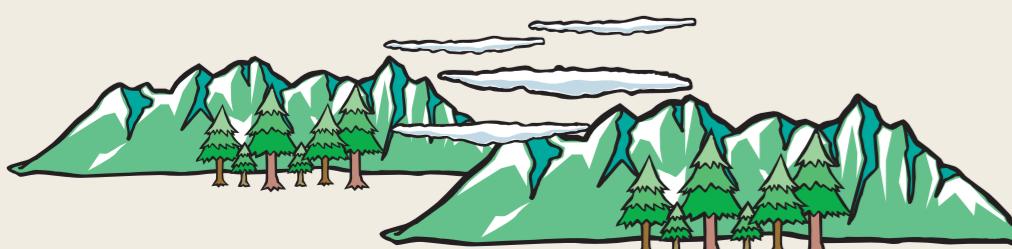
小古曾の西にある秀山愛宕山(愛宕大権現がある)に連なる標高74.3mの小山が見当山。頂に二等三角点がある。かつてここには唐笠松と呼ばれた高さ20mの松があつて伊勢湾を行き交う船の目印となり、また、見晴らしが良く明治時代には米相場を伝える手旗の中継所であった。

2 大蓮寺

俗称米田の森にあったことから米田山法鎮寺といい真言宗の寺であった。後に現大蓮寺の西北の俗称大蓮の地に堂を建立し、米田山大蓮寺となる。布教にこの地に逗留された淨土真宗高田派第10世真慧上人に帰依し、淨土真宗に転宗、現本堂は1813年(文化10)再建のもの。

3 観音寺

寺の縁起によれば織田信長の北伊勢侵攻により兵火にあったが、村民が本尊觀世音菩薩を守護して災禍を逃れ、村仏として維持された。1779年(安永8)黄檗山萬福寺の末寺となる。



4 願誓寺

真慧上人に帰依し真宗高田派に属す。現本堂は1792年(寛政4)再興のもの。第十四世義雄(昭和41)は高田派專修寺「鑑學」となり、中国哲学を研究、学士院会員、文化功労者となり著作も多い。本尊である阿弥陀仏は聖德太子の御作。



5 小許曾神社

現代では小古曾神社とも書く。伊勢の国253社ある延喜式内社のうち小社として記載され1100年の歴史がある。明治の合祀令により小古曾にあった末社6社、川原崎社、米田社、鈴森社、御堂塚社、東宮、八幡社と愛宕大権現を合祀している。
【庚申塚】運動広場西、以前村内6か所にあったものを小古曾神社に集めた。
【白龍社】神殿左に位置している。



小古曾神社南方の、もと五百石にあったが合祀のためこの地に移った。白蛇が住み着いていたので共に移ってもらい定住の場として今の社を建てた。

【首切り地蔵】境内運動広場の西

縁起によれば、内部川の河原で光るものを見つけてみると仏頭であった。石屋に胴体を付けてもらい、お祀りする場所をお伺いしたところ「お宮に置いてくれ」とのことでの場所に鎮座することになった。

【神宮遙拝の石灯籠】境内運動広場の西

お伊勢さん参拝の代わりに拝んだという。神社の東、東海道沿いの道標の側にあったが1998年(平成10)下水道工事により現在地に移設。



6 横井川堰開発記念碑

次項の横井川堰完成を記念し1919年(大正8)「横井川堰開発記念碑」が建立された。2010年(平成22)近鉄内部線踏切南側の現在地に移設。



7 横井川堰

小古曾地区は内部川を水源にしていたが毎年水不足に悩まされていた。北小松地内古川より小池川を流れて内部川に合流していた水を小古曾に流すため、1832年(天保3)当時の村役人三谷新太郎が小古曾地内一ノ繩・横井の地で内部川に堰を設け、水利を図った。堰は形を変え今も小古曾の田を潤している。



8 成満寺

1047年(永承2)、真言宗長生寺として創建されたが、後藤家の菩提寺となつたことから真宗高田派に転派して米田山成満寺と改称された。その後采女城とともに織田信長の兵火にあり焼失、三代目の折に再建された。現在の本堂は1982年(昭和57)の再建のもの。



9 杖衝坂・芭蕉句碑

太古、倭建命(ヤマタタケルノミコト・日本書紀では日本武尊)が東征の帰路、病にとりつかれこの地を杖についてようやく登ったところから杖衝坂という。比高20mながら東海道の道筋の中でも急坂の一つ。伝説によれば重い地名の発祥地。昭和初期まで唯一の幹線道路であった。江戸時代に作られた「東海道名所図会」(とうかいどうめいしょず)にも杖衝坂が紹介されている。
【芭蕉句碑】芭蕉がこの坂で落馬したことを説いた「歩行(かち)ならば杖衝坂を落馬かな」という有名な無季俳句の碑が建つ。
弘法の井戸・大日の井戸坂の中ごろにある。かつては街道往来の人の喉をうるおし、また生活用水として使われた。今でも地域の人によって守られている。



10 血塚社

倭建命(ヤマタタケルノミコト・日本書紀では日本武尊)伝説地のひとつである御血塚の祠がある。江戸時代の「伊勢名勝誌」には「尊の足より出でし血を封せし処なり」との記述があり、倭建命の血で染まった石を集めて葬つたと伝えられている。



11 采女八幡社

鎌倉時代の1188年(文治4)の創建とされる。1909年(明治42)の合祀令により、波木町の加富神社に合祀されたが、1926年(大正15)に分祀、社殿も造営され地元の氏神として祭られている。傍には山の神2体も祀られている。



12 采女一里塚跡

1604年(慶長9)徳川幕府は江戸日本橋を起点とし、全国の街道に一里塚を建てた。四日市市内には富田、三ツ谷、日永、采女の4カ所にあり、采女は101里目に当たる。



13 豊富稻荷神社

1861年(万延2)に京都山城国伏見稻荷神社の祭神を分霊・勧請して創建された。もとは杖衝稻荷大明神とも称したが、後に豊富稻荷神社と改称された。



14 采女城跡(市民緑地)

藤原家を祖とする後藤家は、代々鎌倉幕府の御家人で検非違使や評定衆を勤め功績があり、三重郡采女郷の地頭職に任せられ、この北山に築城(築城は1180年代という説と、1260年という説あり)してこの地を治めた。桶狭間の戦い以後勢力を伸ばしてきた織田信長は、尾張、美濃を平定し、伊勢に侵攻した。15代に亘ってこの地を治めてきた後藤家は、信長の侵略により1572年(1568年説あり)、15代後藤采女正の代で滅ぼされ落城した。その折千奈美姫が身を投じた深井戸をはじめ、郭、空堀、土塁などの遺構が多く残されている貴重な中世の山城である。近くに古市場、矢矧橋などの地名が残っている。



15 真慧上人旧跡碑

淨土真宗高田派第10世の上人。1434年(永享6)生~1512年(永正9)寂。下野国(栃木県真岡市)の本寺から全国に布教に出る。伊勢の国では北小松の丘陵地(この辺一帯を中山という)に1461年(寛正2)七堂伽藍を建て民衆の教化に努めた。その旧跡碑が丘陵地にある。その後、采女城主後藤采女正の焼打ちにあい、1469年(文明元)本山を津の一身田に移し、高田派専修寺とした。真慧の弟子蓮藏坊慶林が北小松の寺跡を、南小松に移し現在の中山寺に至っている。中山寺には真慧書状や、御遺物「月見中山」の扁額などが残されている。



16 小松神社

731年(天平3)創建、元は今の小松神社西の丘陵地にあった。1908年(明治41)加富神社に合祀されたが地元の熱意により1942年(昭和17)分祀。1976年(昭和51)災害防護のため丘陵地の開削が決まり、地形が激変、1979年(昭和54)に現在の地に移設された。



17 中山寺

中山寺は、1461年(寛正2)真慧上人が創建された旧跡寺院で、元は北小松の丘陵地一帯にあり七堂伽藍を擁する大寺であったが法難にあって炎上し、本山を一身田専修寺に移した。その後子蓮藏坊慶林が現在の南小松に再建し中山寺とした。
【モッコク】平成26年市指定天然記念物



18 南小松八幡神社

1962年(昭和37)鹿間町の久間田神社から勧請した南小松の氏神さん。すぐそばには小松地蔵があり、その裏にも数体の墓石があるが、詳細ははっきりしない。



19 上品寺

849年(嘉祥2)天台宗の成保寺(じょうほうじ)として宇喜寺に建立された。真慧上人に帰依して淨土真宗となる。1621年(元和7)に僧慶養が現在の地に移し上品寺となつた。



20 ごくろ橋

足見川を渡って波木から四郷に抜ける道があり、この足見川に架かる橋を「ごくろ橋」という。采女城の番所がこの辺りにあり、交替時にご苦労と言っていたことからこの名がついたと言われる。また、橋のたもで洗い物をする女子衆が、通る人にご苦労さんと声をかけていたことに由来するとも言われている。波木南台団地の東端の道路わきには往時の道を示す道標(1930年、昭和5設置)があり、碑には右四郷村四日市道と標されている。



21 了信寺

もと觀音堂良信寺といい、弘法大師の創建と伝えられ采女城主後藤采女正の祈願所であつたが、織田信長の兵火にあいすべてを焼失、1679年(延宝7)多田道貞が再興した。本堂左手に五輪塔6基があり、傍の案内板には「采女城主後藤采女正の墓か」と書かれている。



22 加富神社

波木町、貝家町の西、標高約40mの小高い丘に建つ。記紀の時代の創立とされ、天智天皇の時代に今地に移された。火の宮ともいい、もと采女七郷の總社である。加富、火富と書くが、加止美(かとみ)と読むべきと書かれた書もある。明治の合祀令により地区的末社・小社・村社が合祀されている。同名の神社が山田町にもあり、共に三重郡の延喜式内神社である。加富神社は采女城主後藤家とも縁が深い。昭和30年代までは境内で奉納相撲が行われていた。

